

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚和幸事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org

皆さんこんにちは。明けましておめでようございます。かわら版も足かけ五年目に入りました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

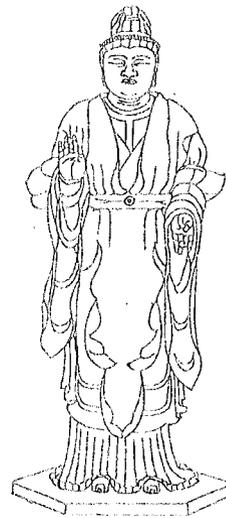
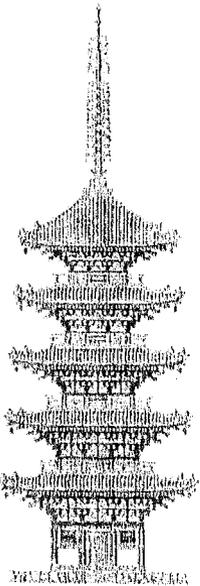
## ★天部はインドの神様

さて、昨年来、かわら版では仏像について勉強しています。仏像は大きく四つに分類され、昨年は如来・菩薩・明王についてお伝えしました。今月からは天部編です。

天部の「天」は天竺(てんじく)の「天」、インドのことです。つまり、天部は仏教が興るよりもはるか昔からインドに伝わる神様をモデルにしています。だから独特の姿をしているんですね。今月号では帝釈天(たいしゃくてん)について調べてみました。

## ★寅さんでお馴染みの帝釈天

帝釈天と聞けば、葛飾柴又帝釈天。そう、皆さんお馴染みのフーテンの寅さん。映画「男はつらいよ」シリーズで



帝釈天

「生まれは葛飾柴又。帝釈天で産湯を使い...」という口上が頭に浮かびますね。柴又帝釈天は正式には経栄山題経寺(きょうえいざんだいきやうじ)と言います。日蓮上人作の帝釈天板仏をご本尊にしています。

帝釈天は武術の神様で、金剛杵(こんごうしよ)を武器に阿修羅と戦い、阿修羅を仏教に帰依させました。古代インドでは宇宙の中心とされる須弥山(しゆみせん)の山頂にある善見城(喜見城)に住み、四天王を従えて下界の不正や悪事を監視しています。また、雨を降らせて豊かな農作物をもたらす雷雨神(らいていしん)としても知られています。

## ★東寺講堂の立体曼荼羅

全国各地にある帝釈天像の中でも、最も有名なのは京都東寺の国宝帝釈天像。東寺は弘法大師が嵯峨天皇から下賜された布教の拠点です。鐘(かね)よろい(よろい)をまとい、手には阿修羅を倒した

